

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 株式会社 E E 2 1

研修事業の名称 未来ケアカレッジ介護職員初任者研修 (通信)

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2 時間	<講義内容> ・研修課程の全体構造をつかみ各研修科目相互の関連性をイメージできるよう説明する。 ・介護保険サービス・介護保険外サービスの内容について説明する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	<講義内容> ・居宅、施設など、それぞれの仕事内容について説明する。 ・写真等を用い、講師の現場体験を踏まえながら居宅や施設のサービス提供現場に関するイメージを身に付けさせる。 ・ケアプランの位置づけからサービス提供までの業務の流れを説明しチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含む地域の社会資源との連携について説明する。 <演習実施方法> ・居宅、施設、通所介護におけるサービス提供の違いについてグループ討議を行い、働く現場の理解を深めさせる。

合計		6			
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	5. 5 時間	1. 5 時間	4時間	レ ポ ー ト 0 1 問 題 1 ～ 9	<講義内容> ・介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを踏まえ、介護・福祉サービスの提供にあたっての基本的な考え方としくみについて説明する。（個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、プライバシー保護） ・介護分野におけるICF、QOLとノーマライゼーションの考え方を正しく理解できるよう説明する。 ・高齢者虐待と虐待の種類を説明する ・どのような行為が虐待となるのか、身体拘束の禁止、高齢者虐待防止のための法律、高齢者の養護者支援について説明し、対応方法を指導し、高齢者虐待に対する理解を促す。 ・個人の権利を守る制度として、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活支援事業について説明する。 <演習実施方法> ・具体的な虐待のケース・スタディを用いてグループで討議を行う。 <通信課題の概要> ・人権と尊厳の保持・医療福祉分野での人権・QOLの考え方・ノーマライゼーションについての理解・高齢者虐待と虐待の種類・介護福祉士の義務について・個人の権利を守る制度に関して
②自立に向けた介護	3. 5 時間	0時間	3. 5 時間	記 述 問 題 1 レ ポ ー ト 0 1 5	<通信課題の概要> ・自立支援に関して（自立・自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性/個別ケア、重度化防止） ・介護予防と介護予防事業に関して
合計	9	1. 5	7. 5		

3 介護の基本（6時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	2時間	0時間		<講義内容> ・介護環境の特徴（訪問介護と施設介護の違い）及び地域包括ケアシステムの方向性について説明する。 ・介護職に求められる役割と専門性について説明する。重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援、自立した生活を支えるための援助、根拠に基づく介護、チームケアの重要性、事務所内及び多職種から成るチームについて説明する。 ・異なる専門性を持つ多職種との連携とチームケアの重要性について説明する。介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームを組んで医療・看護の双方から利用者を支えるのにはどのような意義があるのか、また、それぞれの専門性を活かすことにより効果的なサービスが提供できること、そしてチームケアの役割分担を説明する。 <演習実施方法> ・チームケアの重要性や連携について学習したことを踏まえ、効果的な役割分担についてグループで討議を行う。
②介護職の職業倫理	1時間	1時間	0時間		<講義内容> ・介護職という専門職における職業倫理の必要性を踏まえ、利用者や家族との関わる際の留意点について説明する。 （専門職の倫理の意義、介護における倫理、介護職の社会的責任、プライバシー保護と尊重について）
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	0時間	2時間	記述問題 1402	<通信課題の概要> ・介護における安全の確保について（事故予防について・安全対策について・リスクの予測マネジメントについて） ・感染対策についての原因と経路・感染に対する正しい知識について ・急変時の対応について
④介護職の安全	1時間	0時間	1時間	問題 5902	<通信課題の概要> ・介護職員の健康管理について安全衛生について・ストレスマネジメントについて・腰痛について ・手洗い、うがいの施行について ・感染症対策について
合計	6	3	3		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	4時間	3時間	1時間	記述問題 レポート 103	<講義内容> ・介護保険制度創設の背景と目的、動向、基本的な仕組み、サービス、財源、給付方法について説明する。 ・介護保険制度については、ケアマネジメントの意義、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置と地域包括ケアシステムの推進など介護保険制度の近年の方向性について説明する。 ・仕組みの基礎的理解としては、保険制度としての基本的な仕組み、介護給付とその種類、予防給付、要介護認定の手順について学習する。 ・介護保険制度を支える財源、組織、団体の機能・役割については財政負担、指定介護サービス事業者の指定について説明する。 <演習実施方法> ・契約の際の注意事項やケアプラン、個別援助計画書等の役割を理解するためロールプレイング形式で実際に説明を行う。 <通信課題の概要> 包括的支援事業と地域包括支援センターについて
②医療との連携とリハビリテーション	2.5時間	0時間	2.5時間	問題 レポート 1603	<通信課題の概要> ・訪問看護サービスについて・医行為とは何かについて・医行為に該当しない行為について・リハビリテーションとその過程、スタッフの役割について・リハビリテーションの理念・施設における看護と介護の役割・連携

③障害者自立支援制度およびその他制度	2. 5 時間	0 時間	2. 5 時間	問題 1 5 8 4	レポート <通信課題の概要> ・障害者福祉制度の概念について ・ICF の制度について・障害者総合支援法の目的・サービス体系・障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解(介護給付・訓練等給付とは何か、申請から支給決定まで)について・個人情報保護法について ・障害福祉サービスについて・地域生活支援事業について・成年後見制度について・日常生活自立支援事業・生活保護の種類について
合計	9	3	6		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護におけるコミュニケーション	4時間	2時間	2時間	レポート05 問題1～4 記述問題1	<講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について説明する。この中で、相手のコミュニケーション能力に対して理解や配慮が必要である点、傾聴、共感や受容、気づきなど介護職に求められる姿勢とその大切さについて説明する。 ・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて説明する。 ・利用者と家族とのコミュニケーションとしては、まず利用者の思いを把握することが大切であることを踏まえ、意欲低下がみられた場合の要因をしっかり考えることを説明する。また、利用者の感情に共感する一方で、家族の心理を理解し、いたわりと励ましを行うのが介護職であること、信頼関係を形成することの意義、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することが無いようにすることが介護職として求められること、アセスメント手法について説明する。 ・利用者の状況・状態（障害）に応じたコミュニケーションの留意点として視力、聴力、失語症、構音障害、認知症等について説明する。 <演習実施方法> ・次の手順にて1対1のコミュニケーション演習を行う。 ①ペアを組む→②先攻と後攻を決める→③先攻が2分間今の出来事や自分のこと等を話し、後攻は笑顔を取り入れながら黙って聞く→④話が終わったら、次に先攻は2分間先ほどと同じ話をして後攻は「相槌」「うなづき」をしながら聞く→⑤役割を交代する <通信課題の概要> ・自己覚知について・介護の現場におけるコミュニケーションについて・非言語的コミュニケーションについて・SOLERについて・利用者、家族とのコミュニケーションについて・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術・ニーズ・デマンドについて

②介護におけるチームのコミュニケーション	2時間	1時間	1時間	レポート 5/9/05	<講義内容> ・記録による情報共有について講義を行う。その為に、介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、記録の種類、個別援助計画書の他、ヒヤリハット、5W1Hについて学習する。 ・報告・連絡・相談に関する留意点を正しく学習する。 ・コミュニケーションを促す環境づくりをする重要性を学習する。会議、情報共有の場、役割の認識の場を踏まえ、カンファレンスの重要性について学習する。 <演習実施方法> 訪問介護計画書と記録を作成し介護記録の書き方を習得する。 <通信課題の概要> ・介護における記録の意義や目的について ・記録の種類について ・記録の書き方と留意点 ・報告、連絡、相談に関する留意点について
合計	6	3	3		
6 老化の理解（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	3時間	0時間		<講義内容> ・老化に伴う防衛反応（反射）の変化と喪失体験を心身の変化の特徴として説明する ・咀嚼機能の低下、筋・骨・関節・体温維持機能の変化など、身体的・精神的機能の変化とそれに伴う日常生活への影響を説明する。 <演習実施方法> ・高齢者体験セットを装着した状態で、歩行や座位、立位を体験する。体験後は、老化による不自由さやそのことがこころにもたらす影響について考えるグループワークを行う。

②高齢者と健康	3 時間	0 時間	3 時間	レ ポ ー ト 0 6 問 題 1 9 記 述 問 題 1	<通信課題の概要> ・高齢者の疾病と生活上の留意点について ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について ・高齢者の誤嚥の原因と口腔ケア、嚥下障害のある高齢者の食事摂取時の観察ポイント (変形性関節痛、生活不活発病、誤嚥性肺炎、高血圧症、心疾患(狭心症・心筋梗塞)、脳梗塞、腎臓病、骨折、視力、難聴、腹痛、浮腫、排便、神経系(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症)) ・高齢者の感染症
合計	6	3	3		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	1.5 時間	0時間	1.5 時間	問 題 レ ボ ー ト 1 5 4 0 7	<通信課題の概要> ・パーソンセンタードケアについて ・認知症ケアの視点(病態を理解し、できることに着目する)について
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	2時間	0時間		<講義内容> ・物忘れとの違いなど認知症の定義、せん妄症状、脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア、治療法や薬物療法とその使用薬など、認知症の原因疾患とその病態、それに応じたケアの留意点、健康管理について学習する。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1時間	1時間	0時間		<講義内容> ・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)の特性、生活環境での改善について学習すると同時に、認知症の利用者へのふさわしくないケアについても学習する。 ・認知症の進行に合わせ、表情・視線・姿勢などから相手の気持ちを推察し、相手の世界に合わせ、プライドを傷つけない、コミュニケーションの延長上の援助行為とその方法を学習する。 <演習実施方法> ・認知症の行動・心理症状が出ている人の日常生活場面の事例(DVD)を観る。その後、その場面での本人の気持ちを考え、対応法を考えるグループワークを行う。

④家族への支援	1. 5 時間	0 時間	1. 5 時間	レ ポ ー ト 0 7 問 題 5 ～ 7 記 述 問 題 1	<通信課題の概要> ・認知症の受容過程での援助について ・介護負担の軽減(レスパイトケア・公的支援や家族の支援・家族へエンパワメント)について ・認知症であることの受容（第一期から第四期）について
合計	6	3	3		
8 障害の理解（3時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	0. 5 時間	0 時間	0. 5 時間	問 題 1 ～ 4 レ ポ ー ト 0 8	<通信課題の概要> ・ICF の考え方（ICIDH）について ・ICF の分類と医学的分類 ・障害者福祉の基本理念について ・ノーマライゼーションの概念について ・各障害の関連法について

②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	2. 2 5 時間	1. 5 時間	0. 7 5 時間	記 述 問 題 1 問 題 5 レ ポ ー ト 0 8	<講義内容> ・視覚・聴覚・平衡感覚、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害等の「身体障害」について学習する ・「知的障害」について学習する。 ・統合失調症・気分障害・依存症などの精神疾患と高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害、注意欠陥多動性障害を含めた「精神障害」について学習する ・「その他心身の機能障害」について学習する。 <演習実施方法> ・脳血管障害後遺症による運動まひ（片まひ）の体験演習を行う。利き手を三角巾でつり、それと同じ側の下腿に短下肢装具を装着し、歩行や座位、立位を行う。また、口角にテープを貼り、口唇の開きにくさを体験する。体験後は、障害による不自由さやそのことが生活にもたらす影響について考えるグループワークを行う。 <通信課題の概要> ・発達障害の特徴について
③家族の心理、かかり支援の理解	0. 2 5 時間	0 時間	0. 2 5 時間	問 題 1 レ ポ ー ト 0 8 1 ・ 1 2	<通信課題の概要> ・障害の理解と受容支援、介護負担の軽減について ・家族支援となるレスパイトケアサービスについて
合計	3	1. 5	1. 5		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	1時間	1時間	0時間		<講義内容> ・我流介護を排除した、本来行われるべきICFの視点・理論と法的根拠に基づいた介護について説明する。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5時間	2時間	3時間	レポート09 問題1～11	<講義内容> ・「学習と記憶」「感情と意欲」の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因等、こころとからだに与える影響について説明する。 <演習実施方法> ・老化、障害を受け入れるまでの具体例を提示し、そこに至るまでの感情や、それを阻害する要因と受け入れるまでのこころとからだの変化を推察し、グループごとに発表する。 <通信課題の概要> ・学習と記憶の基礎知識について ・感情と意欲の基礎知識について ・自己概念と生きがいについて ・老年期の人間関係について ・障害の自己受容と社会受容
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	3時間	3時間	レポート09 問題12～20 記述問題1	<講義内容> ・骨、関節、筋、中枢神経と体制神経、自律神経と内部器官など人体の各部の名称と働きに関する基礎知識とバイタルサイン、ボディメカニクスの活用について説明する。 ・「②介護に関するこころのしくみの基礎的理解」で学習した内容を踏まえ、こころとからだを一体的に捉えることと、利用者におこる様子の変化に気づく視点について説明する。 <通信課題の概要> ・人体の構造と機能について ・筋肉の働きについて ・バイタルサイン、について ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識について

生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	6時間	3時間	3時間	レポート10 問題1～9	<講義内容> ・家事を行う際に行うべき、利用者の多様な生活習慣、価値観、生活歴に基づいた主体性、能動性を引き出す自立支援とその際の予防的な対応について説明する。 <演習実施方法> ・限られた食材の中から食事メニューを作成し、そこからいかに利用者の生活習慣、価値観、生活歴を読み取り、そこから導かれた主体性・能動性を引き出す自立支援と予防的対応をグループごとに発表する。 <通信課題の概要> ・生活と家事の理解について（意義と目的、専門性） ・家事援助に関する基礎知識と生活支援について（食事、衣類、掃除、寝具、買い物）
	⑤快適な住環境整備と介護	6時間	3時間	3時間	レポート10 問題10～17	<講義内容> ・家庭内に多い事故とバリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与の講義を通じて、介護における居住環境の基礎知識を説明する。 <演習実施方法> ・利用者とその居住環境の具体例を提示し、住宅内でのリスクをグループごとに検討し、それに対するリスクマネジメントを発表する。 <通信課題の概要> ・快適な居住環境に関する基礎知識について ・高齢者の生活に配慮した住環境について ・高齢者、障害者特有の居住環境整備について

	⑥整容に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護	7 時間	7 時間	0 時間	< 講義内容 > ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動の意義・効果について説明する。 < 演習実施方法 > ・座位での衣服着脱の一部介助（片マヒ）（上下）（上着：前開き・かぶり） ・ベッド上での衣服着脱の介助（上下）（浴衣） 上記をロールプレイング形式で行う。
--	--------------------------------------	------	------	------	--

⑦移動・移乗に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	1 2 時間	1 2 時間	0 時間	(1) 通学時間数4時間 <講義内容及び演習実施方法> ・身体機能の状態に応じた移動・移乗について講義を行い、片麻痺、失語症、視覚障害者など、状況に応じた安全な移動方法についてグループ討議による演習を行う。褥瘡予防について説明する。また、ボディメカニクスの基本原則について講義し、支持基底面積の違いによる身体の安定性の変化を体験演習する。 (2) 通学時間数2時間 <講義内容> ・歩行の意義、歩行する重要性を説明し、杖の種類や歩行器の説明、高齢者や視覚障害者、肢体不自由者等を歩行介助する時の方法を説明する。 <演習実施方法> ・視覚障害者の歩行介助（屋外）/白杖使用 ・肢体不自由者の杖歩行介助（片マヒ）（一部介助）/T字杖使用 上記をロールプレイング形式で行う。 (3) 通学時間数6時間 <講義内容> ・ボディメカニクスの基本原則、重心、重力の働きを理解し、利用者の自然な動きや残存能力を利用した、利用者と介護者双方が安全で安楽な移動・移乗の方法について説明する。 ・車いすへの移乗方法・車いすの移動介助方法など具体的な方法について説明する。 <演習実施方法> ・ベッド上での体位交換（水平移動・上方移動・仰臥位から側臥位・仰臥位から端座位・端座位から立位） ・椅子からの立位、座位（片マヒ）（一部介助） ・ベッドから車いすへの移乗（全介助・一部介助） ・車いすの安全点検 ・車いす移動の介助（屋外） 上記をロールプレイング形式で行う。
--	-------------------	-------------------	-------------	---

	⑧食事に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護	4 時間	4 時間	0 時間	< 講義内容 > ・食事の意味やそのケアに対する利用者の意識、低栄養・脱水のもたらす弊害、食事と姿勢の関係や咀嚼・嚥下のメカニズム、個々の好みや空腹感、満腹感の感受性について説明する ・時間や場所などの整備環境、福祉用具の活用と介助方法、誤嚥性肺炎の予防、食後の口腔ケアについて説明する。 < 演習実施方法 > ・口腔機能回復の方法 ・肢体不自由者に対する座位での食事介助(片マヒ) (一部介助) ・視覚障害のある利用者の食事介助 ・口腔清掃の介助 上記を2人1組でロールプレイング形式にて行う。
	⑨入浴、清潔保持に関連 したところとからだのし くみと自立に向けた介護	7 時間	7 時間	0 時間	< 講義内容 > ・羞恥心、身体の清潔を保つ意義、遠慮への配慮、体調の確認、などの事前準備から身体状況の確認や室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、身体の拭き方・支え方などの全身清拭と目、鼻腔、耳、爪の清潔方法、臥床状態での陰部清浄、足浴・手浴・洗髪について説明する。 入浴介助の方法と注意事項、入浴以外の清潔保持の方法（洗髪、手浴、足浴、清拭）を説明する。 < 演習実施方法 > ・ベッド上での洗髪 ・全身浴と浴槽の出入りの介助（片マヒ）（一部介助） ・座位での足浴 ・ベッド上での手浴、清拭 上記を2人1組でロールプレイング形式にて行う。

⑩排泄に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護	7 時間	7 時間	0 時間	< 講義内容 > ・排泄の身体（生理）的、心理的、社会的意味、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、ケアを受ける際のプライド、羞恥心への配慮、プライバシーの確保と利用者の精神的負担、生きる意欲の影響について説明する。 ・トイレ介助の具体的方法を説明する。 ・おむつ使用の判断と使用における弊害、便秘の予防について説明する。 < 演習実施方法 > ・ベッドからポータブルトイレへの介助（片マヒ）（一部介助） ・ベッド上でのおむつ交換（紙・布） ・差し込み便器、尿器での介助 上記を2人1組でロールプレイング形式にて行う。
⑪睡眠に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護	2 時間	2 時間	0 時間	(1) 通学時間数1時間 < 講義内容及び演習実施方法 > ・睡眠時における安楽な姿勢と褥瘡予防、温度・湿度・音・光・室内環境を含めた安眠のための介護の工夫を説明し、グループ討議による演習を行う。 ・寝具を正しく管理できるよう、シーツやマットレスパッドのたたみ方を演習する。 (2) 通学時間数1時間 < 講義内容 > ・介護用ベッドの説明、使用時の注意点などについて説明する。 < 演習実施方法 > ・ベッドメイキングを実施（2人1組） くずれにくくシワになりにくいベッドメイキングができるよう指導する。

	⑫死にゆく人に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	1 時間	1 時間	0 時間	< 講義内容 > ・ 終末期ケアの概要を理解し、介護従事者の基本的態度や他職種間の情報共有の必要性を説明する。 ・ 自然死（老衰）や癌死など、高齢者の死に至る過程と、臨終が近づいた際の兆候、その際の介護について説明する。 < 演習実施方法 > 終末期ケアの重要性等についてグループ討議を行い発表する
生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理解	6 時間	< 講義内容 > ・ それぞれの介護過程における目的・意義・展開を学習する。 ・ それぞれの介護過程とチームアプローチを展開する。 < 演習実施方法 > ・ 個別援助計画書の作成を実施する。		
	⑭総合生活支援技術演習	6 時間	< 演習実施方法 > ・ 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題の発見という流れをグループごとに行う。 ・ 事例は高齢（認知症・片麻痺）の2事例		
実習		0 時間	実施無し		
合計		7 6			
1 0 振り返り（4 時間）					
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法		
①振り返り		3 時間	< 講義内容 > ・ 研修を通して学んだことと、継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点をまとめる。 < 演習実施方法 > ・ 利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等についてグループ討議を行い発表する。		
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修		1 時間	< 講義内容 > ・ 研修後も継続的な学習事項があることを理解し、その具体的な内容を紹介すると共に、就業に備えた必要最小限のマナーを説明する。		
合計		4			
全カリキュラム合計時間		1 3 1 時間			

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること